

■平成22年第1回定例議会(3月3日開催) : 山本せいごの一般質問より

質問

1. 道路関係の整備について (4質問)

1. 山手幹線木津方開通への現在の進捗状況は？

- ・未整備区間約400mは学研都市のエントランスゾーン(玄関口)と位置づけている。
- ・現在地権者を中心に再度組合としての区画整理事業の合意形成に向けて活動を行っている。
- ・90%以上の合意形成が図れるよう積極的に支援・指導を進めていきたい。

答弁

2. 山手幹線を中心軸とした精華町の道路構想について？

- ・各自治会から要望の新設道路及び山手幹線に接続の既設道路の拡幅要望については、現在8路線あり一定年次計画を策定し、順次進めていきたい。
- ・マスタープランでは精華大通りから北の堂の農免道路につなぐ線がかかかれているが、山手幹線が完成形になっていない中で計画する段階でない。・・・4次計画での復活を要望する。

答弁

3. 町内道路の補修整備基準は？ 住民にわかりやすい物差しが必要！

- ・補修整備基準は定めていない。
- ・道路の損傷状況を確認し、緊急度を見ながら工事の判断をしている。

答弁

4. 163号線の拡幅工事の現状と見通しは？

- ・平成21年度より乾谷地区の用地買収に着手している。(約33%の進捗)
- ・国の凍結候補路線のひとつに精華拡幅もふくまれている状況ですが、地元のご理解で推進委員会も設置されており、町としても最優先課題として政府に強く要望している。

答弁

凍結解除: 工事は進みま

質問

2. 新・環境センター建設地(鹿背山)決定後の対応について(3質問)

* 建設に8~10年かかると思われるが、構想を考えておく必要がある。

1. 木津川市清掃センター建設地決定後における当町の対応について？

- ・建設計画について、相楽郡西部塵埃処理組合を中心に構成市町である木津川市と精華町で協議の上、詳細を決定していくことになる。

答弁

2. 新センター設置に向けての財政確保の方策は？

- ・焼却施設の建設価格は、1トンにつき約1億円と言われ、100トン規模処理能力とすると相応の建設費用が必要となる。交付金や地方債の活用の外、負担金の計画的な積み立てが必要となる。
- ・打越台建設はすべて精華町が建設した。減価償却分としての積み立ては現在6億3000万円となっている。これは覚書で精華町の単独資金とうたっている。

答弁

3. 打越台環境センターの跡地利用計画は？ ダイオキシンなど残土処理対策など！

- ・新センター建設の進捗によって、関係機関、議会と相談しながら進めていくことになる。
- ・取り壊し費用については、現・減価償却積立金の22年度4月分以降を積立金として充てる。

答弁

質問

3. 農産物の地産地消と、より品質の高い安全な商品へのとりくみを！

(2質問)

1. 地産米の地元での消費方法の推進策はあるのか？

- ・町内直売施設での販売、保育所、小学校の給食(週4回)の全量町内産米食に取り組んでいる。

答弁

2. 道の駅および販売センターなどの構想はあるのか？

- ・膨大な事業費などから具体的な考えを持ち合わせていない。
- ・山手幹線が全線開通時に計画が樹立できるか、重要な案件と思っている。
- ・JA直営店やグループ直営店には、安全・安心な農作物を作るということで、栽培指針、トレーサビリティ、出荷検品、農薬の残留検査などの取り組みに町として支援したいと思っている。

答弁

いちご園や販売所のトータルな構想を！

質問

4. 町庁舎を有効利用し、財源確保に活用すべきではないか！(2質問)

1. 庁舎4階の空きフロアの利用計画は？

- ・人口5万人を想定した庁舎で現在4階は空きフロアとしている。今直ちに利用をする計画はない。今後いろんな意見を聞きながら努力をしていきたい。

答弁

H13年より9年間、
賃貸し換算
2億5000万円のムダ！

2. 交流ホールの年間利用実績は？

- ・開館期間は、1月4日から12月28日までの359日。
平成20年度では、237日間、2,225時間の利用となっている。

答弁